

平成 29 年度第 2 回小牧市都市景観審議会 議事録

1 日時

平成 30 年 1 月 30 日（火）10 時から 11 時

2 場所

小牧市役所 本庁舎 4 階 404 会議室

3 出席委員

瀬口 哲夫	名古屋市立大学名誉教授
西倉 潔	名古屋造形大学教授
加藤 晶子	小牧市議会副議長
林 雄大	愛知建築士会小牧支部
藤岡 幹根	小牧市文化財保護審議会
名坂 敏彦	小牧市観光協会
玉木 弘子	小牧市女性の会
伊木 利彦	小牧市市長公室長

4 欠席委員

丸川 翼	小牧青年会議所
谷口 文男	小牧商工会議所

5 事務局

渡辺 学	小牧市都市建設部都市整備担当部長
牧野 治	小牧市都市建設部都市整備担当次長
永井 浩仁	小牧市都市建設部都市政策課長
柳 充志	小牧市都市建設部都市政策課副主幹
大澤 正人	小牧市都市建設部都市政策課計画係長

6 議事

第 1 議事録署名者の選任

第 2 議題

小牧市サイン計画及び同配置計画の見直しについて

第 3 その他

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

皆様、おはようございます。

定刻となりましたので、会議のほう、始めさせていただきたいと思います。

本日はお忙しいところ、小牧市都市景観審議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

初めに、先般委員の交代がございましたので、会の開催に先立ちご紹介させていただきます。

小川真由美委員が辞任され、新たに加藤晶子委員にご就任いただいております。皆様のお手元には審議会委員名簿を配付させていただいておりますので、ご確認くださいませようお願いいたします。

それでは、平成 29 年度第 2 回小牧市都市景観審議会を開催させていただきます。

本日の出席委員は 8 名であります。したがって、小牧市都市景観条例施行規則第 13 条第 2 項により、本会議は成立いたしております。

また、小牧市都市景観審議会運営規程第 5 条第 1 項により、本日の会議は公開となります。議事録につきましては、市役所の情報公開コーナー及び市のホームページにおいて、後日公開させていただきます。

それでは、会の開催に当たり、都市建設部長の渡辺よりご挨拶を申し上げます。

○事務局（渡辺都市建設部部長）

委員の皆様、おはようございます。

本日は、公私ご多忙の中、小牧市都市景観審議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

本年 2 回目となります本日の審議会では、昨年 8 月に開催しました前回におきましてご審議いただきました「小牧市サイン計画及び同配置計画」の見直し方針に基づく見直し内容などにつきましてを議題とさせていただきます。

委員の皆様におかれましては活発なご議論をお願いいたしまして、簡単ではございますが、冒頭の挨拶とかえさせていただきます。よろしくご審議お願いいたします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

続きまして、瀬口会長よりご挨拶をいただきます。

○瀬口会長

おはようございます。

先日国道 41 号を走っていて、小牧市のサインは目立っていいなと。緑が非常に、小牧山がマークになっているので非常にわかりやすいので、愛知県内でこんなにわかりやすいを使っているのは小牧市だけじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

そういうことで、今日はサイン計画についてご議論いただくということでございます。よろしくお願ひしたいと思います。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

ありがとうございました。

続きまして、資料の確認をお願いいたします。

事前に送付させていただきました資料が4点。議事日程、資料1「小牧市サイン計画」及び「小牧市サイン計画配置計画」の見直しについてと書かれましたA3の資料。次に、資料2と右肩に書かれましたA4の「見直し(案)対象施設一覧」と書かれました資料。そして、参考資料と右肩に書かれました「対象施設のランク分け」と書いてございます、裏に小牧市の地図を描いたものになりますが、こちらが事前に送付させていただいた資料になります。

次に、本日お手元に準備させていただきました資料といたしまして、審議会委員名簿、「小牧市サイン計画(案)」と書かれました冊子と「小牧市サイン計画配置計画(案)」と書かれました冊子がそれぞれ1冊ずつ。

合わせまして7点となっております。

不足している資料等ございましたら、お申しつけいただければと思いますが、よろしいでしょうか。ご確認ありがとうございます。

それでは、議事に入らせていただきます。

議事の進行につきましては会長にお務めいただくこととなっておりますので、瀬口会長にお願いしたいと思います。

○瀬口会長

それでは、会議を進行させていただきます。

お手元の次第、日程で第1の議事録署名者の選任ということでございます。

小牧市都市景観審議会運営規程第7条第1項に基づき、本日の議事録署名者に林雄大委員、藤岡幹根委員をお願いいたします。

それでは、了解いただきましたので、次に、日程第2の議題に入りたいと思います。

「小牧市サイン計画及び同配置計画の見直しについて」でございます。

事務局に説明を求めます。

○事務局(大澤都市政策課計画係長)

それでは、ただいま議題となりました小牧市サイン計画及び同配置計画の見直しについて説明させていただきます。

恐れ入りますが、お手元の資料1をお願いいたします。

初めに、1、見直し方針でございます。

昨年8月30日に開催いたしました前回の審議会でご審議いただいた内容となりますが、今回の見直しにつきましては、資料にございますとおり、公共施設の新設・廃止・名称変更に伴う誘導対象施設の見直し、道路整備に伴う設置位置・掲出内容の見直し、関連計画の策定による見直し、そして外国語表記についての検証、見直しの4点について見直し案の検討を進めてまいりました。

次に、その下、2、見直し内容でございます。資料には、見直し方針にあります4点につきまして、順に見直し内容をお示ししております。

初めに、①公共施設の新設等に伴う見直しでございます。

現行の計画につきましては、平成19年度に配置計画の見直しを行ったものでございますが、それ以降に新設等が生じた施設を、表にございますとおり整理しました。

なお、表の一番下にございます「その他」につきましては、平成19年度以降に新たに整備された施設ではございませんが、これまでサイン計画の対象施設となっていなかった施設であり、例えば篠岡児

童館などの他の児童館は既に計画に位置づけられているなど、他の施設と照らし合わせ新たに対象施設に位置づけをすべきと考える施設でございます。

次に、②道路整備に伴う設置位置等の見直しについてでございます。

こちらにつきましては、平成 19 年度以降に整備されました都市計画道路等の幹線道路を確認し、それを踏まえサインの設置位置や誘導ルートについて検証した結果、現行計画における施設誘導サインの設置位置等に影響を及ぼすものはなかったため、道路整備に伴う見直しはございません。

なお、お手元の資料、参考資料、A4 のこちらの資料になりますが、こちらの裏面に、参考といたしまして、平成 19 年度以降に整備された都市計画道路を赤線で示した道路整備状況図を添付させていただいております。

次に、資料 1 にお戻りいただきまして、1 ページ目の右側、③関連計画の策定による見直しについてでございます。

点線四角囲みでございますとおり、関連計画であります小牧市都市景観基本計画と小牧市観光振興基本計画の両計画とも、「小牧山」がキーワードとなっております。

そこで、これまでのサイン計画におきまして、先ほど瀬口先生のご挨拶でもありましたが、既に小牧市らしさを表現するためサインデザインにおいて小牧山をデザインモチーフとするなどしているところでございますが、下の黒四角囲みでございますとおり、景観基本計画を踏まえ、サインの設置に当たっては、サインが小牧山への眺望を妨げないよう配慮することや、観光振興基本計画を踏まえ、サイン設置の検討においては小牧山に関するものの優先度を高めることを改めて計画に明記することとしました。また、史跡小牧山地内に建設予定の（仮称）史跡センターについては、ランク A の対象施設として計画に位置づけることとしました。

ここで、ランクにつきましてご説明させていただきたいと思っておりますので、先ほどの参考資料、対象施設のランク分けというところをご覧いただければと思います。

資料にございますとおり、ランク A、一番上に囲ってございますが、最も広域的な範囲での誘導の対象となる施設であり、具体的にはドライバー系の施設誘導サインの誘導対象となるものでございます。

資料 1 にお戻りいただきまして、2 ページの④外国語表記についての検証、見直しをお願いいたします。

外国語表記の検証、見直しに当たりましては、2 つの視点で行っております。

1 つ目は、資料にございます、片仮名の A とございますが、国等が示す関連制度等からの検証、見直し。2 つ目は、その下、左側の中段に片仮名で I とございますが、外国人への意見聴取を踏まえた検証、見直しでございます。

片仮名の A では、青色破線囲みでございますが、平成 25 年度の標識令改正や観光庁が平成 26 年 3 月に示しました「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」の内容を踏まえ、英語表記を検証、見直しを行うこととし、また、全市案内サインなどにつきましては、多言語対策が可能な QR コードを用いた案内の導入を検討することとしております。

また、片仮名の I では、前回の審議会でのご意見を踏まえ、今回の見直しや新設等施設の英語表記だけではなく、現行計画における全ての施設の英語表記について、外国人の方、具体的には本市で通訳を行っている外国人の方と翻訳の仕事をしてみえる方のお二人にご確認いただき、その結果を踏まえた見直しを行うこととしております。これらの結果、資料の左側下段から右側にかけての表にございます 13 施設につきまして英語表記の見直しを行おうとするものでございます。

なお、こちらに記載のない施設の英語表記につきましては、外国人の方への確認の結果、特にご指摘

をいただかなかったことを踏まえ、現行のまま見直しは行わないこととしております。

このように①から④の4つの見直し内容を踏まえまして、お手元の資料2といたしまして、見直し（案）をお示ししております。

こちらの資料、見直しの箇所につきましては赤字で表記させていただいております、表の一番右側の「見直し内容」といったところに、英語表記の修正でありますとか新設、施設の新設など新設というようなことで見直し内容をお示ししております。

また、本日皆様のお手元には、ただいまご覧いただきました資料2の見直し（案）の内容に沿って修正いたしました各計画（案）を配付させていただいております。サイン計画と配置計画の2冊になります。これらにつきましては、本日のご議論を踏まえ適切に修正し、仕上げてまいりたいと考えており、後日、取りまとめた計画書を委員の皆様方にはお送りさせていただく予定としております。

以上、簡単ではございますが、小牧市サイン計画及び同配置計画の見直しについての説明とさせていただきます。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○瀬口会長

前回、いろいろなご意見をいただきまして、その後事務局で詰めていただいたものを今説明いただきました。

ご質問、ご意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○名坂委員

英語表記のところの史跡小牧山についてちょっと意見があるんですけども。

国交省の基準を参考にしてこの2ページ目、A3の右の一番上です。史跡小牧山ですが、Mt. Komaki に変えるということになっているんですが、ちょっと観光協会としては違和感がある。あと、観光協会としては売りとして、小牧山という山も一つの固有名詞としていろいろパンフレットもつくっておりますし、ここに英語つづりも Komakiyama と書いてあり、今度新しく年度末にできる女性向けを狙ったこういうおしゃれなパンフレットでも、英語は Komakiyama と記載している。

ここでは Mt. Komaki だけになっているんですが、一つの意見としては、Mt. Komakiyama まで入れてほしいなというのは、観光協会ではそう解釈しました。

例えば、ここにもどこかの英語表記の研究会、この出どころまで出してこなかったのもちょっとわからないんですが、国かどこかが諮問した研究会ですが、この表記の仕方も2通りあって。特に山というのは、漢字はいろんな読み方があってわかりにくいという中で、山も「ヤマ」とか「サン」とかありますので、Mt をつけるのはいいんですが、その後にヤマかサンを入れたほうが外国人も読み方がわかりやすいだろうと。

あと、小牧市民の老若男女も外国に行ったときに、Mt とあって Komakiyama とか、St とあって Komakieki とかあったほうが、Mt が山だろうとか、St が駅だろうとわかりやすくなるので、観光協会としては、yama も入れていただいて、発音がはっきりわかるようにしてもらえた方がいいという意見です。

これだけちょっと統一できないでしょうか。

○瀬口会長

もったいな意見だと思います。

どうでしょうか。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

小牧山、Mt. Komaki という議論、おっしゃるとおりいろいろ議論があったところでございます。

今回案としてお示しさせていただいたものは、「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」、観光庁が平成 26 年 3 月に出したものでございます。こちらに英語表記方法の基本方針というのがございまして、こちらを参考にさせていただいております。

その中で例示として、例えば富士山、阿蘇山というものが Mt. Fuji ですとか Mt. Aso で、月山とか立山というものについては Mt. Gassann ですとか Mt. Tateyama というふうになっており、普通名詞部分と切り離してしまうとそれ以外のものでは意味をなさなかったというものが立山とか月山で、富士山は Mt. Fuji というような例示がございましたので、このたび案といたしましては Mt. Komaki というものを出させていただいたところでございます。

○瀬口会長

踏まえたことにはなっていない気がするんですけども、どうですか。

○名坂委員

もう 1 つ、いろいろ調べてみたのですが、例えば地名の山とかですと、本当にヤマとかサンとか入っていないんですが、こういうふうに、これが史跡が施設になるかどうかわからないんですけども、何とかパークとか施設名でそういう固有名詞があると、やはり六甲山何とか Park とかなっているんですけども、地図だけだと Mt. Rokkou になっていたり、函館山も地図だけ見ると Mt. Hakodate になっているけれども、函館山ロープウェイだと Hakodateyama ropeway とかなっているのです、この史跡も施設というか公園としてみなすと、やはり小牧山もつけてほしいなという思いがあります。

○瀬口会長

お願いします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

確かに、小牧山、市のシンボルでございますので、この場でご議論を踏まえて、必要に応じ修正させていただきたいと考えております。

○瀬口会長

川の場合は全部 river、Kisogawa River でしたよね。

お願いします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

また先ほどの観光立国の例で恐縮ですが、石狩川は Ishikari River で、荒川は Arakawa River というような例が出ております。Ara River ではよくわからないと思います。

○名坂委員

あと、これ、統一することも一つの目的なのであれですが、もしそうなったとしても、観光協会とし

ては、やっぱり Komakiyama というふうにさせていただくことだけ、ちょっとこれお許しはいただきたいです。

○瀬口会長

皆さん、ご意見どうでしょうか。

要するにどっちでもいいというふうには私は理解しました。知名度が高いものは Mt. Fuji。ローカルなものはどちらかというと Mt. 何々yama というふうになっているケースが多いのかもしれない。わかりにくい点もあるけれども。

小牧山の場合はどうでしょうか。ご意見をお願いします。

○加藤委員

今日初めてで、わからない中で意見を言わせていただくんですけども。

私たち市民からすると、Mt. Komaki というのは全然違和感があって入ってこないです。今おっしゃられるとおり、Komakiyama であってこそ我が町の小牧山なんだというイメージがちょっとあるんですけども。

できれば、本来皆さんにアピールするときに観光協会の方たちが考えて、そうして今までもしてきていただいた部分もあります、大きいですし、やはり合わせた形であってこそ市民の方たちに浸透していくんじゃないかなというふうに感じますので、もしできるなら、Komakiyama までつけた形のほうが個人的にはいいんじゃないかなというふうに感じます。

○瀬口会長

ありがとうございます。

ほかの委員さん、どうでしょうか。

皆さんの、市民の方が非常に認知度が高いので、小牧山 (Komakiyama) というのが一般的に使われているし、市役所の小牧山課、Mt. Komaki 課ではないですよ。それを英語表記にしたんですね、小牧山課は。そのときに議論があるかもしれませんが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、委員の皆さんは Mt. Komakiyama Historic Site ということでいきたいという意見がありました。そういうことでお願いしたいと思います。

ほかにはどうでしょうか。お気づきの点をぜひ。

外国人にもわかりやすいということが一つの目的であり、前回のご意見を踏まえて随分改善をいただいていると思いますが。

お願いいたします。

○伊木委員

2点ちょっとお聞きしたんですけども。

A3 の 2 ページの小牧市何とか施設で Komaki City を入れるパターンと City が入っていないのがあるように見受けられるんですが、その違いと、あとは、資料 2 の 2 ページのところの文化・福祉の施設のところの第 1 老人と第 2 老人が、野口の郷と小針の郷という通称があるんですが、そこは入っていないんですが。

例えばパークアリーナですと Komaki Sports Park (Park Arena Komaki) だとかですね、通称が入っている。ふらっとみなみもそうですね。そこの違い、第1・第2老人も確かに正式名称ですが、今、小針の郷とか野口の郷という表現もしています。その辺の表記はどうかなという気がいたしますが。

2点、ちょっとお聞きしたいと思います。

○瀬口会長

お願いいたします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

2点ご指摘いただきました。

第1・第2老人福祉センターですけれども、委員ご指摘のとおりのお愛称も、通称という部分がございますので、小牧市スポーツ公園（パークアリーナ小牧）という、2ページの下段にありますような愛称表記を入れさせていただきたいと思います。

また、1つ目の質問の確認ですが、小牧市スポーツ公園と小牧市都市センターといったところでのよろしいでしょうか。

○伊木委員

スポーツ公園の下の都市センターですね。Komaki City と書いて、温水プールは Komaki。City が入ったり入らなかったり、この辺の違いがよくわかりにくい。ほかの施設もあるんですが、City が入ってたり入っていなかったり、この違いが少しわかりにくかったんですけれども。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

まず、こちらお示しの、例えば小牧市温水プールなどは Komaki というふうになっておりますが、都市センターのほうが City Hall Branch ということで、市役所支所という意味になりますので City と入れております。

以上です。

○伊木委員

こっちにかかるね。わかりました。

○瀬口会長

よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

ほかにはどうでしょうか。

○西倉委員

細かいことですが、Citizen というのと City の表記がされているようですけれども、何か考えがあっての、英語の通訳の方の判断でしょうか。

例えば、資料2の2ページの小牧市第1老人福祉センター、これは Citizen となっていますね、市が。そのほかの、市立図書館では City になっているんですけれども、市立の場合、そうでもないですね。

小牧市青年の家はCityですよ。

○瀬口会長

CityとCitizenの使い分け。

○西倉委員

あともう1個出ていますね。Komaki Civic Center。

○瀬口会長

Civicというのは一番上にありますね。

○西倉委員

何か考えがあってやっているのか、よくわからないんですけども。

○瀬口会長

お願いします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

今回、検証といたしましては、全体見直しをしたものについて外国人の方にご覧いただいてというところをよりどころにさせていただいた部分がありまして。100%正解というものではない部分の中で、外国人の方にわかるかわからないか、という視点でご確認いただいたところであります。

委員ご指摘の部分も含め、外国人の方に見ていただいて理解できるというようなところで、今回は変更しないことを提案としてさせていただいております。

○瀬口会長

Civic Centerというと公館地区という感じがするんですけども、官庁地区。アメリカ語では。市民会館は他の市でもあるわけだから、他の市では何て使っていますか。

○西倉委員

communityという表現もありますよね。

○瀬口会長

どうですか。communityという表現もあるということですけども。

○名坂委員

先ほどの件ですが、小牧山にも通じるんですけども、どんな判断のもとにやっているのかというのでは、いろいろな答えが出てきてしまう。

外国人というのは一体誰なのかという感じがあります。

○瀬口会長

小牧市民病院といった場合、それは市民のための病院だと。小牧病院といった場合は、尾張の広域的な病院という位置づけだという説明を聞いたことがあります。そんな使い分けを病院ではしているのですか。

それぞれの都市で独自に使っているということですね。

○名坂委員

すみません。あとお聞きしたいのが、前回もありましたが、その場所、その施設がもう公式的に出している英語表記があるからそれに合わせているかどうか聞かれたかどうかということですかね。それで違ってくるのかなという。

○瀬口会長

そうですね。赤いところが今回基本方針に従ってつけてあって、もともとのものまでは変えてもらってないというところも入っていますね。

お願いします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

先ほどのご質問の中で、公式の表示という部分を少し触れさせていただきますと、各施設を所管する課に英語表記について公式的に出しているものがあるかということ調査したところ、明確に定めているところはありませんでした。例えば、ホームページなどで、いわゆるグーグル直訳みたいなもので載せているものはあるんですけども、それが、公式的に決めているというものは特段ありませんでした。

先ほどの civic のお話ですが、市民会館については、community というご意見をいただいた部分もありますので、少し、英語の辞書等も踏まえながら事務局で検討させていただいて、適切なものに直していきたいというふうに考えております。

以上です。

○瀬口会長

ありがとうございました

City、Citizen、Civic の使い分けですね。それについて少し検討して、今日の意見を踏まえてということよろしいでしょうか。

はい、お願いいたします。

○加藤委員

今の中の市民会館についてですけれども、これ、他市町も市民会館がありますので、他市町でどのような表現を、この愛知県のほうでしているのが多いのかというのもひとつ参考にしてほしい。他の市に行ったら市民会館はこういう表現で、小牧に来たらこういう表現でというふうに違うより、今の段階では統一がされていないかもしれませんが、より多くの市町が使っている表現に小牧も参考にしてみ習う部分もあったほうがいいのかと思います。その辺はちょっと調べて、近隣市町調べていただければと思うんですけども。要望です。

○瀬口会長

ありがとうございます。
お願いします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

ご指摘ありがとうございます。
近隣市町も調べて、それも参考にして決定させていただきたいと思います。

1つ補足ですが、ただ、こちら市民会館、公民館という部分も一緒に案内してしまっていて。同じ場所でするので、ばらばらで案内すると2行使って、案内板を2行使ってしまうことになります。その辺もよく踏まえながら考えていきたいなと思っております。

以上です。

○瀬口会長

ありがとうございます。
公民館というの、またいろいろありますよね。中身が違ったりするから。
ほかにはどうでしょうか。

それじゃあ、civic、city、citizenは、他市町の例も調べて、それから意味も調べて、あるいは今日意見いただいた、市民の認知度が高いものについてはやはりよく注意して決めていただくということでしょうか。

ほかにはどうでしょうか。今日ご議論いただくのは、そういうことでよろしいでしょうか。見直し案、特にこの見直しが重要なわけですけれども。

それから、ランク分けについても、これはこういうふうにしました。それから、サイン計画報告書（案）というのがございます。このことについてご意見がございましたでしょうか。特にないでしょうか。

私は1つあるんですけども、いいですか。

16ページですけども。16ページに、先ほど議論のありました小牧山というのがあるんですね。

小牧山の解説ですけども、下から2行目、「現在でも山中の各所に土塁、空堀、井戸跡、屋敷跡と見られる曲輪などが残り」とありますけれども、小牧山の最近の話題は石垣が出たということだと思えます。

近世以降のお城の歴史の中では、織田信長が一番最初に石垣を使ったというのが小牧山といわれています。そうすると、ここに石垣が入ってないと、安土城よりも先につくったという、岐阜城よりも先につくったという意味が出ないように思うんですが、いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

修正させていただきます。

○瀬口会長

お願いします。
ほかにはどうでしょうかね。

はい、お願いいたします。

○林委員

表記とかではなくて、ランクですけれども。

事前にいただいた資料2で疑問に思ったのが、交通機関なので4ページになるんですけれども、小牧バスターミナルがCランクになっているんです。これは観光とかを考えていくと、小牧駅と合わせて考えた上でのCなのか、ちょっと疑問に思ったのでお聞きしたいなど。

わかりますか。

○瀬口会長

ランクづけの、参考資料を見ればいいですか。

○林委員

資料2の4ページ、事前にいただいた、4ページの交通機関のところの小牧バスターミナルですけれども、ランクがCランクになっているので。

Cランクというのは、利用者が周辺住民や特定の人に限定されているような文言の位置づけになっているので、小牧駅と合わせて考えた上でのCということなのか、ちょっとお聞きしたかったんですが。

○瀬口会長

はい、お願いします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

まず、こちらのランク分けについては現行計画のままになっているものでございますが、AランクとBランクは、基本的にドライバー系のサインの対象になります。

ランクCとなりますと、周辺案内サイン等の歩行者系サインの対象となるものでございます。

そうした中で、バスターミナルと小牧駅というバランスを考える中で、ドライバー系の対象となるのは小牧駅にしておいて、隣接するバスターミナルはCとしておくのが良いと考えております。

以上でございます。

○林委員

ありがとうございます。

そうすると、このランクCの位置づけの意味が、利用者が周辺住民や特定の人に限定されてという定義がちょっと違ってくるのかなという気がするんですけれども。

○瀬口会長

観光に来た人とか、そういう広域性もあるのではないかというご意見だと思いますが、どうでしょうか。

ドライバー系じゃないという意味では例に入らないかもしれませんが、広域性という意味でおっしゃったんですね。

○林委員

そうですね。

○名坂委員

すみません、委員長。

観光案内所の質問からいうと、感覚的なものですが、外からの人もやはり続日本100名城に選ばれたこともあって、特に小牧山へ行く問い合わせが多くて。

そうしたら、バス停はどっち側だと結構聞かれるので、これちょっと違うかもわかりませんが、重要度はかなり高くなってきているという感想は持っております。

○瀬口会長

どうでしょうか。今回はドライバー系施設の重要度だけれども、歩行者系で重要度があるんじゃないか。

歩行者系にこのバスターミナル、だから両方入っている場合があるのかな。具体的にどういうのかです。

観光の視点でちょっと広域性が出ますからね。そういう面でこのランクづけも修正があり得るかどうか。

あるとしたら、今のバスターミナルぐらいですか。

○名坂委員

あと、こちらから行くときでも、駅はもう結構載っていてわかっているんですが、バスの乗り場があったら載っているほうがわかりやすいし、その町は親切だなという印象を持つなという感想はあります。ちょっと補足的な話で、関係ない、間接的なことですが。

○瀬口会長

お願いします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

ご意見、ありがとうございます。

今お話をお聞きして、確かに小牧駅とバスというのが知らない人だと結びつきがわからない部分があるので、駅だけ案内してもというところは非常にわかる場所でございますので、小牧駅とバスターミナルというのを案内の中で併記できればいいのかなというふうに思うんですが、看板によっては、やはり文字数とか視認性が失われたというところもありますので、ドライバー系についてはちょっと難しいのかなと思うんですが、いわゆる周辺案内ですか電子案内、歩行者系サインについては、今のご意見を取り入れて検討していけたらと思います。

○瀬口会長

バスターミナルも、駅だと思えば駅なんですよ。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

そうですね。駅として捉えているところではあるんですけども。

ランクとしてはこういう形ではあるんですが、例えば配置計画上、小牧駅と後ろにつけることができれば、バスターミナルというのを少し事務局では検討していきたいと思います。

以上です。

○瀬口会長

そうしますと、趣旨としては、要するに、観光客など市内の人じゃない人たちがバスを使うときに広域性がある。それは今の説明だと、ドライバー系の誘導サインだから載ってないかもしれないけれども、じゃあそういう人たちに対してきちっとわかるような、案内ができるような歩行者系で対応したいと、こういうことですね。

だから、それであればよろしいでしょうか。

○名坂委員

ちょっとくどいもう一言ですが、外から行ったときに、やはり駅の西にあるか東にあるかというのは結構、それで違うとストレスがかかりますので。それが来てすぐわかると、外からの観光客、ビジネス客にとって非常にありがたい、親切だという印象を受けるとと思いますので、ぜひ載せてほしいなと思います。

○瀬口会長

その点はどうですか。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

西、東、ごもつともだと思います。私も知らない駅に行くと、西、東というところがあると思います。しかしながら、サインに載せられる情報量に限りがあることもあり、なかなかサイン計画の対象サインとしては、西、東というところまでを表現することは難しいと考えますが、駅東、駅西というところを可能な限り表現できればと思いましたので、考えていきたいと思っています。

○名坂委員

ありがとうございます。

○瀬口会長

これはやはり、観光客、町を知らない人が来たときにスムーズに移動できるかどうかという視点で見るということですよ。

ただ基準をつくってそのままやりましたんじゃ、ちょっと誠心がこもっていないので、今言われたように、そういう視点で、スムーズに動けるようにちょっと歩行者系も見直していただくという方向でしょうか。それでよろしいですか。

特に異論はないようです。ですから、ぜひスムーズにという視点、観光客に対して親切になるようにしていただきたいと思います。

ありがとうございます。

ほかにはどうでしょうか。

はい、お願いします。

○藤岡委員

この冊子のことでいいですか。

この冊子、第1版と書いてあるもの、サイン計画のほうですけれども、25ページのあたりに、「現況サイン表示調査」と書いてあるんですが、一体この調査がいつごろ行われたものなのかなという気がします。

現況と言いながら、もうその店がなくなって何年前になるのというような写真が使われていたりだとか、それから、41号って拡幅されてもうこの場所って随分様変わりしたのになとかいうような感じを受けるので。何年ごろに調査したかというふうに明示するか、現況という以上、最近の写真に差しかえるか、ちょっと考えられたほうが。これから発行するものとしては。歴史的に昔こうだったんだわねという形の資料として出すなら別ですけれども、そうでなければ差しかえをいろいろ入れておいたほうが現況という言葉にはなじむかなという気がします、いかがでしょうか。

○瀬口会長

調査の方法の中に、25ページですけれども、調査の方法の中に、いつ調査を実施したのか、現地踏査により行うという。まず現況の日時を入れてほしい。

それで、26ページの写真については、基本的には現状に変えてほしい。現況という場合は、例えば2016年、2017年、2018年とかをここの写真のところに入れて。現況ですから、新しく撮っていただいて入れたらどうでしょう。大変ですけれども。

お願いします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

ご指摘ありがとうございます。

今回、この基礎調査という2章の部分は大きな修正を加えていません。時点修正をしようとするとかさん出てくるところではあるんですが、基本的には平成11年度に策定されたサイン計画のサインデザイン等を定めるに当たっての調査結果、基礎調査というものがそのまま載っているということになっています。

○瀬口会長

それを書いてください。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

はい。

○瀬口会長

平成11年度に調査したものですと。

だから、「現況」というのはとらないと。サイン表示調査にして、そして、その調査を平成11年のものですと。現況サイン表示調査は平成11年の話だから。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

わかりました。

ですので、新たに全部基礎調査をし直すというようなことではなく、年度を載せるということは可能かと考えますので、対応させていただきます。

○瀬口委員長

現況という言葉がおかしいですね。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

現況の、現在のサイン計画がそのまま載っている部分です、黒字の部分は。

ですので、もう少しめくっていただいたところに、サイン計画をまだ決める段階で①案、②案、そういった段階もそのまま計画としては残っています。

更新した部分というのが限られる部分になりますので、今回の見直しでどの部分を直したということは前段の部分に入れさせていただきたいと考えておるんですが、このあたりのサインの小牧山のデザインを決めた経緯ですとか、そのあたりについては現行の計画のまま、一部見直しという部分になりますので、全面改定する部分じゃないのでそのまま残したというのが事務局の考えでございます。

○瀬口会長

現況サインの問題点と課題というの、だから、平成11年の計画だなということがわかるようにして、その計画の問題点ですと。ちょっと言葉が足りないですね。

今のご指摘、それでよろしいですか。

○藤岡委員

結局、現況と言いながら20年前のものですよね。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

デザインを決めるに当たっての現況調査の部分がそのまま載っているという状況になりますので、確かに会長おっしゃられるとおりの言葉足らずの部分がございまして。新しく出たときには現況だと思われることになりますので、どこかにそういった部分を。

○瀬口会長

現行かな、そうすると。

現在使っているサイン表示。調査はおかしいね。サイン表示のための調査。現行か。見出しを少し変えて、調査の年次をきちっと入れたらどうですか。

誤解のないようにしていただきたいということですね。

○藤岡委員

非常にこれ、20年前のものをもとにして現在を語っていいのかという気がして。

でき合いのものを継続したいというのはわかるんですけども、果たしていいのかと。現況という言葉もそうですし、その後、植栽だとか何かも含めて見やすく改善したんだというのってないのかなだと

か、看板自体変えてきたところがないのかなどとか。

20年前をもとにして、だからやっとな動いたんだわねというような形になってしまうことへの不安感があるんですが、いいですか。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

今回の見直しについては、対象施設ということで進めていたところもありますので、現行調査を当時のように一から行っておりませんので全て更新することは、難しい部分もあります。

○瀬口会長

調査を新しくしてくれと言っているわけではないんですよ。

これは過去のものでも現在まで生きてきているわけだから、その中で課題はどんなものがあったかを整理していますよというふうには書けば誤解がないと思うんですよ。ほかの調査はないわけだから。20年前の調査に見るとこういう課題があって、それは今でもやっぱり言えるんじゃないかということで見直したわけでしょ。そういうストーリーにしてもらったらどうですか。

ちょっと細かくは見えていませんけれども、課題がそういうことですよね。問題点と課題を挙げていて情報の整理が不十分である。資料の37ページですけれども、形の整理が不十分である、情報の整理が不十分である、種類が多く乱立している、適切な配置が徹底していないということが問題点として挙げられていると、平成11年の調査では。

それに基づいて、新たな現在の視点も入れて、こういうことが問題ですねというふうにして改定することです。

お願いします。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

今のご意見を踏まえて修正を検討いたします。

○瀬口委員

よろしく願いいたします。

ほかにはどうでしょうか。

皆さんからご意見をいただくと内容がよくなってきますので、ぜひいろいろいただけらと思いますが。

はい、お願いします。

○西倉委員

非常に長い時間をかけられてサイン計画が、この小牧市は工夫されていると思います。

冒頭の瀬口議長の話のように、小牧市に入ってくるとデザインが結構いいんです。ちょっとこんなデザインしないよというような大きさと目立つ形できちっとできていいなと僕は思っています。

ですが、デザインというのは時代とともにちょっと変わっていつてしまったり、十数年も経てばそれは古く見えたりということも、そういう側面もあると思います。

それで、ぜひ提案を1つしたいんですけども、ある時期、ある時にきちとした実力のあるグラフィックデザイナーに、今この小牧市のサイン計画はどういうところの位置づけにあるのかと、人々の目のもとでというような監修を一度されるといいと思います。

今時点でちょっと僕はおかしいなと思うのは、サイン計画の報告書のほう、そこのデザインの標準化ってところがあって、これがいいような悪いようなところになっていると思いますね。

誰が、いつどうやっても同じようにデザインができるようにいろんな寸法が決められているんですが、例えば94ページ、95ページの、この中に、真ん中辺のサインですけれども、「ポリテクセンター中部」とありますね。

これをこのまま見るとものすごく変な字の配列になっていて。つまりどういうことかということ、ポの次のリというのは幅が狭いわけです、字としては。ですが、その幅の狭いものも広いものも全て200という文字の寸法と文字間に40ミリが与えられているので、ちょっと開いたちゃった感じに見えるんですね。

これは写植のちょっと古い時代のやり方、あるいは現在のワープロの文字の配列にちょっと近いものだと思うんですけども、文字をきちっとした配列をさせていくということ、あるいはもうちょっと手の込んだ活字の時代がありましたけれども、その文字の間隔、きちっと字の大きさと関連させながら配列するというところからはずれた考え方なのかなと思います。

恐らくこれは、簡単にワープロなんかで表現してしまうようなものだったらいいんですけども、デザインの専門家やグラフィックの人に言わせると、この文字配列はないよということが答えとして出てくると思うんですね。

すぐにやったらいいですというわけには、これはなかなか難しい問題なので、いつのときかそういう見直しなりそういう検討なり、そういうアドバイスなりを受けられることを勧めます。

全体としては、僕はいいサインだとは思っております。

○瀬口会長

貴重な意見だと思います。ぜひそのアドバイスを生かしていただけたらどうかなと思います。

ありがとうございました。

ほかにはどうでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日、見直し案におおむねというよりも、皆さんからご意見いただきましたので、特に市民ホールだとか小牧山の名称については事務局で検討していただくということで、基本的には大きな変更がなかったということで、これらの意見を踏まえてまとめていただきたいと思います。

それでは、日程を見ますと3番目のその他でございます。

その他について、事務局から何かありましたらお願いしたいと思います。

○事務局（永井都市政策課長）

事務局からは特にございません。

○瀬口会長

事務局からは特にないということでございます。

それでは、全体を通しまして何か、このサイン計画、配置計画以外について、この市の計画についてアドバイスをいただけるようなことがありますか。

よろしいでしょうか。

○加藤委員

1つ質問があるんですけども。

○瀬口会長

お願いいたします。

○加藤委員

この場にそぐわないかもしれないですけども、避難所に絵の誘導のサインがよく他市町で見られるんですけども、小牧のほうはあまり見かけないんですけども。

広域避難場所のマークは、バツテンのマークは、サイン計画の85ページにきちんと載っているんですけども、これではなくて、普通に歩いていていざというときにこちらのほうにあるよという、人のマークの入ったような。いろんなわかりやすい、明らかに見てこちらのほうにあるというのがわかると思うんですけども、ああいったもののサインというのは今後の計画にはあるのかなのか、ちょっとお尋ねしたかったんですけども、どうでしょうか。

○瀬口会長

よろしいですか。

防災関係のそういう避難場所、あるいは危険地域の表示。南のほうに行けば過去の浸水の高さ、こういうのが表示してありますよね。それらについては小牧市ではどういうふうになっていますでしょうか。

○事務局（大澤都市政策課計画係長）

避難場所の案内の看板についてでございますので、この度ご議論いただいたサイン計画の話からいきますと、ちょっと対象から外れるものではございますが、所管する危機管理課にいただいたご意見をお伝えさせていただきます。

○瀬口会長

ただ、危機管理課のほうで、目立ちやすいということで赤だとか黄色とか使いがちなので、やっぱりそれは景観上問題があるかもしれないので、その辺は少し危機管理課、担当だけではなくて、ぜひ相談に乗ってあげていただきたいと思います。

ありがとうございます。

ほかにはよろしいですか。

お願いします。

○西倉委員

全然議題と関係ないことを申し上げたいんですけども。

○瀬口会長

いいですよ。

○西倉委員

都市景観審議会という名前の事務局がこれを主催されているわけですが、景観という言葉で捉えられる範囲が限られたものになってきちゃっていて。この町の暮らしやこの町の未来を考えるならば、景観

ではなくて、一つの言葉としてはアーバンデザインあるいは都市デザインというような側面から町の人々の生活や、そこにかかわるもの、諸施設の関連を考えていくということが、今はそういう時代なのかと僕は思っているんですけれども。

小牧市の中には、都市デザインという部局というのはございますか。

景観だけでは、景観という言葉だけで捉えられるものは、もちろんサイン計画だったりとか色彩計画だったりとか、そういうことになってしまうんですが、道路とは一体誰のものなのかとか、パブリックスペースという公共の空間というのはどうやって小牧市はつくり上げていくんだとか、そういう視点でもってデザインを考えていくということをやっている自治体もあります。

景観というだけではもう、繰り返しになりますが、町全体のあるあり方というかデザインとしての町をつくっていく、まちづくりその他のいろんな活動を網羅することはできないんじゃないかというふうに私は考えていますけれども。

発展的にこの景観というのを、景観審議会というのを都市デザインあるいはアーバンデザインの審議会というふうになさったらいいんじゃないかというのが、私の個人の意見です。

いかがでしょうか。

○瀬口会長

どうでしょうか。

○事務局（渡辺都市建設部部長）

これは私の部署だけではなくて、市全体で考えることでありまして、問題提起として、貴重な意見として伺っておきたいと思えます。

○瀬口会長

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

それじゃ、今日いろいろご意見いただきまして、あとは議題が、その他のところでもあったけれども、幅広い景観についてのご意見をいただきまして、今後の参考にさせていただくということでございました。

それでは、以上をもちまして本日の議事日程を全て終了いたしました。慎重なご審議をどうもありがとうございました。

平成 29 年度第 2 回小牧市都市景観審議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。